

大会宣言（案）

愛労連結成から約二年、私たちは「県下二七〇万労働者のたたかひの誓、六七〇万県民の真の守り手」としてたたかってきました。国民春闘の旗を高くかけ、春闘共闘委員会を結成し、大幅賃上げ実現・労働時間短縮などをめざした九〇・九一国民春闘。たたかうリーダーの伝統を発展させ、大きく成功させた「白川メーデー」。労働者の権利を守れとたたかっている国鉄闘争・地労委闘争。湾岸戦争反対、自衛隊の海外派兵反対などのとりくみ。自衛隊輸送機の海外派遣をストップさせた二・一一小牧集会。小選挙区制・政党法制定反対のとりくみ。中部財界・自民直結の県政をやめさせ、住民本位の革新県政実現をめざすとりくみ。愛知共済会の発足や愛知健康センターの結成、愛知社保協の再建などをすすめてきました。この二年間のたたかひは、愛労連が諸要求実現のたたかひのあらゆる場に姿を現し、そのセンターとしての機能を発揮し、たたかひを大きく前進させる県内の革新・民主勢力の中心部隊であることを明らかにしました。

この間の愛労連のたたかひの特徴は、愛労連方針の正しさと、各単産・地域労連の特性を生かした自覚的とりくみが結合され、大きな力が発揮されたことでした。

同時に、この二年間のたたかひで克服すべき課題も明確になっています。広範な労働者・県民に影響を及ぼす強大な愛労連の建設、各単産・地域労連の強化、愛労連方針の実践を支えられる財政の確立、などです。

私たちがこれらの課題を重視しながら、きょう確認された方針を各単産・地域労連で実践をすすめていくなら、私たちのこれからのたたかひは必ず広範な労働者・県民の支持を得て、「未来の多数派」へと前進していく一歩となるに違いありません。

私たちをめぐる状況は、「生活小国日本」と言われるように、「豊かな国」とはほど遠く、労働者や国民を犠牲にして大企業や独占資本がボロもうけをすすめる過労死に象徴される長時間・超過密労働や健康破壊、臨調「行革」路線推進のこの十年間による国民の教育・医療・福祉・社会保障などの全面的切り捨てがすすんでいます。証券スキャンダルは、バブル経済で大もうけをし、バブルがはじけたら労働者・国民に犠牲を押しつけ、もうけを確保する独占資本主義の姿を明らかにしました。また、日米軍事同盟が地球的規模で強化されようとし、日米の「構造調整」によるアメリカに従属した日本の役割分担の強要、小選挙区制や自衛隊の海外派兵の策動など、政府・独占による攻撃がかけられています。今ほど、愛労連の果たす役割が大きいときはありません。

私たちは、この二日間の大会の成果を踏まえ「人間らしく生き、働くために」ひきつづき前進することを宣言します。

一九九一年 九月二十九日

愛労連第五回定期大会